

平成 31 年 4 月 20 日

教 育 長 様

代表者 校 園 名 :	大阪市立此花中学校	校印
校 園 長 名 :	大阪市立此花中学校	
電 話 :	06-6468-7241	F A X : 06-6468-5764
事務職員名 :	勝見 ゆりか	
申請者 校 園 名 :	大阪市立此花中学校	
職 名 ・ 名 前 :	校長 山岡 伸一	
電 話 :	06-6468-7241	F A X : 06-6468-5764

研究コース
グループ研究 B
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)
542092

## 平成31年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 B	研究年数	継続研究 (2 年目)
2	研究テーマ	<b>保健体育科授業における学習意欲を高める主体的・対話的で深い学びの創造</b> <b>—陸上競技 (ハードル走) の指導方法の研究—</b>			
3	研究目的	テーマに合致した目的を端的に記載してください。 体育実技の個人種目を協働的深い学びにつなげる指導法			
4	研究内容	継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。 ○中学校保健体育部として平成29年度までに、体力向上につながる体づくり運動の指導方法について研究を深めた。一昨年は、体づくり運動の目標の一つである「体力を高める運動」にテーマをあて、ペアで互いのトレーニング計画を立てさせ、目的に応じた効果的な運動を実践することで、運動に親しむ意識を高めた。 運動を8分間継続する中で「体力を高めるための効果的な運動ができたかどうか」「運動の前後で体にどのような変化が表れるか」について気づかせることで、運動に取り組む意欲を高めたり、健康の保持増進のために運動の必要性を理解させることができた。トレーナーの役割として「トレーニング中にどのように励ますと、運動に取り組む意欲を高めることができるのか」について考えさせ、気づくことで、より適切な運動メニューを作成し、アドバイスする効果を確認することができた。生徒が深い学びを通して、主体的に体づくり運動に取り組む態度が確認できる授業づくりを共有することができた。 ○今年度は、昨年度の研究内容を継続し、「体育実技で協働的な深い学びを創造し、より意欲的に実技に取り組む指導方法の研究」という主題を設定し、実技種目を陸上競技のハードル走に焦点を当て、指導法の研究を深め、苦手意識を持つ生徒が体育の授業に意欲的に取り組むことができる協働的な深い学びの授業づくりの指導法を研究し、その成果を公開授業として発表する。 ○ハードル走から瞬発力・平衡性・敏捷性・巧緻性・柔軟性といった自らの高まる要素を意識させ、積極的に練習に取り組むよう練習メニューの立て方について研究する。			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>5月 ○専門委員会① 研究・研修方針の決定 役割分担・日程（スケジュール）等の確認 ○専門委員による「平成31年度体育・保健体育指導力向上研修」（鹿児島市開催）に参加、研修の成果を全市研究発表会で報告、および伝達講習</p> <p>6月 ○専門委員会② 現状の把握…授業指導内容の協議検討等</p> <p>7月 ○専門委員会③ 評価資料（規準・規準表）等の作成 ○専門委員会④ 先進的な取組の視察・研究（高槻市方面） ○専門委員会⑤ 評価資料（規準・規準表）等の作成</p> <p>8月 ○各ブロック研究発表会：研究成果の報告、評価資料の発表・説明</p> <p>10月 ○全市一斉研究発表会：研究成果の発表、評価資料の発表・説明 ○陸上競技（ハードル走）公開授業 ○伝達講習 ○指導講評 於 大阪市立住吉中学校 ○アンケート調査</p> <p>11月 ○専門委員として全国学校体育研究大会に参加</p> <p>12月 ○専門委員会⑥研究発表のまとめ授業づくりのスタンダードモデル（研究会版）作成</p> <p>2月 ○全市への情報発信とまとめ</p>				
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>1、体育の授業において、学習意欲を高める指導方法の研究が、大阪市教育振興基本計画の最重要目標の一つである心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上に期待できる。</p> <p>2、学校現場での授業づくりとして、新任教員の参考となる資料を作成する。</p> <p>3、評価の研究・研修を通して、指導力の向上が期待できる。</p> <p>4、教員の教科指導における指導方法の工夫改ざんが期待できる。</p> <p>5、「学校授業（生徒対象）アンケート・参加者教員アンケート・専門委員アンケート」を実施し、研究発表や研修等の満足度・充実度を評価する。 資料の妥当性（客観性）・信頼性を検証する。 肯定的回答の割合を70%以上にする。</p> <p>6、ブロック研究発表会や全市一斉研究発表会において、研究成果の発表や評価資料の説明等を行う。</p>				
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 <u>報告書提出日（2020年2月25日）までに必ず行ってください。</u> ○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="405 1666 1466 1722"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 元 年 10 月 9 日</td> <td>場所</td> <td>大阪市立住吉中学校</td> </tr> </table> <p>◆代表校園HPでの共有【必須】</p> <p>他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 元 年 10 月 9 日	場所	大阪市立住吉中学校
日程	令和 元 年 10 月 9 日	場所	大阪市立住吉中学校			
8	代表校園長のコメント	<p>一昨年度までの研究では「体づくり運動」に焦点を当て、体力向上を目標とした授業づくり実践を通して、より効果的に活用できる資料を全市中学校へ発信することができました。</p> <p>今年度は、昨年度に引き続き新学習指導要領で注目されている陸上競技のハードル走に焦点を当て、体力向上につながり意欲的に取り組む主体的・対話的で深い学びの充実に向けた指導法を研究し、全市へ情報発信したいと考えています。是非とも承認をお願いいたします。</p>				